

令和3年 7月 9日

おひさま



1学期の終わりが近づいてきました。1年生は小学生として初めての、6年生は最後の夏休み、どんな思い出を作りたいと思っているのでしょうか。

ところで、子どもが言うことを聞かないと感じている保護者の方は多いものです。その原因は言い方や伝え方が子どもに合っていないからかもしれません。今回は、『子どもに届く効果的な伝え方』というお話をします。感情的に怒らず、心に届く叱り方を考えていきましょう。

(参考) PHP 研究所発行「PHP のびのび子育て8」(2017)

1 ガミガミ度90%
感情にまかせて叱る
「興奮爆発」ママ



カッとなったら深呼吸して冷静さを取り戻しましょう

常に子どもに関心をもって接するお母さんです。ただ、子どもが思った通りに行動しないと、「何度言ったら分かるの!」と声を荒げて叱りがちかもしれません。子どもは萎縮して、不満をもってしまいます。

カッとなったら深呼吸して、子どもの言い分を聞いた上で、どうして欲しいのかを静かに伝えるようにしましょう。

2 ガミガミ度60%
あれこれ叱る
「くどくど説教」ママ



ポイントをしばって簡潔に伝えましょう

理想と責任感をもって子育てしているお母さんです。ただ、しっかり教育しなければという思いが強く、過去の出来事までもちだして長々とお説教しがちかもしれません。子どもは何を叱られているのか分からなくなってしまいます。

まず、起きたことを簡潔に叱りましょう。その上で、これからどうしたらよいかを子どもに考えさせましょう。

3 ガミガミ度30%
叱り方にムラがある
「気まぐれ」ママ



叱る基準を決めてブレずに伝えましょう

子どもにあまりうるさく言わない寛容なお母さんです。ただ、子どもが同じことをしても叱ったり叱らなったりと、一貫性がないかもしれません。子どもは「今日はなぜダメなの?」と迷ってしまいます。

人に迷惑をかけたとき、約束を守らなかったときなど、「叱る基準」を決めましょう。ブレない態度で接することが大切です。

4 ガミガミ度10%
優しく諭す
「冷静柔軟」ママ



今後も気持ちを受け止めながら導きましょう

落ち着いたのある優しいお母さんです。子どもを温かく見守りつつ、叱る場面では、子どもの気持ちを尊重しながら、きちんと諭しているでしょう。「ちゃんとできるようになったね。」と誉めることも忘れないようにしましょう。

これからも気持ちを受け止めながら導いていけば、子どもは、行動をコントロールする力を身につけられます。

☆ 成長に合わせて

7歳 学校生活の中でルールを重んじるようになり、言葉が届きやすくなります。なぜ「ダメ」なのかを自分で考えさせ、その上で親の考えもしっかり伝えましょう。

10歳 相手との関係を把握して、対等な立場で話し合いができるようになります。親の失敗したことを話し、子どもの考えを聞く中で話し合いへとつなげていくといいですね。

